

平30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田市結婚支援事業「上田市縁結びプロジェクト」
事業主体 (連絡先)	上田市移住定住推進課 (0268-21-0061)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,613,079 円 (うち支援金 : 1,209,000 円)

事業内容

結婚適齢期世代の結婚に対する意識の醸成、親、地域住民など支援者のサポート体制の構築やスキルアップ等に取り組み、市を挙げた結婚機運の醸成を図るために、民間結婚支援団体と連携し各種事業を行った。

(1)未婚者向け婚活セミナー及び出会いイベント

結婚することの意味や交流会という限られた時間の中で異性に選ばれるためにはどうしたら良いかについてセミナーを実施し併せて交流会を行った。

日時 平成30年10月28日(日) 13時30分から17時30分

場所 上田高砂殿

講師 若井結婚センター 代表 若井順子氏

参加者 男性28人 女性27人

(2)親世代を対象とする婚活セミナーと情報交換会

親世代と現代の婚活事情の違いを知り、我が子への接し方や親としての役割についてのセミナー後、子が同世代の親同士の情報交換を行った。

日時 平成30年9月8日(土) 13時30分から16時30分

場所 上田市西部公民館

講師 若井結婚センター 代表 若井順子氏

参加者 37人(男性5人・女性32人)

(3)相談員向けスキルアップセミナー及び相談員の情報・意見交換

多種多様な相談を日々受けている結婚相談所に講師を依頼し、相談への対応方法を学び併せて相談員同士の情報交換を行いスキルアップに努めた。

日時 平成30年11月16日(金) 9時30分から11時30分

場所 上田市西部公民館

講師 若井結婚センター 代表 若井順子氏

参加者 6人(男性1人・女性5人)

(4)SNS(LINE@)を活用した婚活機運向上プログラムの展開(試行)

長野県が実施したLINE@いじめ相談を参考に、婚活で悩んでいる未婚者等が人目を気にせず相談ができるよう、個人が所有するSNSを利用し個別無料相談と婚活情報発信を行った。

初めての試みであることや、お互いに顔が見えない状況での相談のため満足のいく対応ができるのか。とのことから今年度は試行とした。

相談・情報発信期間 平成30年9月1日~12月末

対象 未婚者、未婚者の家族、社内婚活サポーター等社員の婚活を応援する方

登録者数 80人

内容 幸せな結婚ができるための情報提供
個別相談

(1)



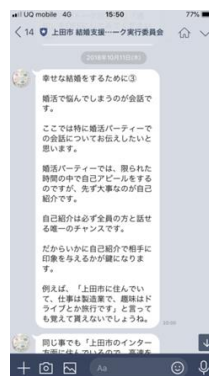
(2)



(3)



(4)



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○上田市婚姻件数

目標 718件 (H28) ⇒ 800件 (H30) ※参考 743件 (H29)

実績 672件

○結婚相談所(社協・JA・民間)新規登録者数

目標 年間50人

実績 130人

※成婚による退会者も発生するため登録数を指標とする。

※複数の相談所へ登録することはより成婚の可能性が高くなるため重複した登録も累計としてカウントする。

未婚者向けセミナーと交流会では、定員をはるかに上回る応募があり、若者の結婚への意識の高まりを感じた。交流会に向けての事前準備や当日行った心構えのセミナーにより、交流会ではグループ自己紹介から1対1のPR、中間マッチング、フリートークと異性を意識し望めたことがマッチング数につながったと考える。

親向けセミナーでは、親世代と現代の婚活事情の違いを知ってもらうことで、我が子との接し方や親としての役割を知ってもらうことができた。

これらセミナーや交流会をとおして、最近の婚活事情を知ってもらうことが、結婚相談所への新規登録につながっていると考えられる。

相談員向けセミナーでは、日頃の支援で悩んでいることや対処法について、結婚相談所の相談員が受けた相談事例を参考にセミナーやお互いの情報交換をすることで、今後の支援の参考にすることができた。

一方で、婚姻件数は減少傾向である。当市では平成27年度から結婚支援事業を実施。また、昨年度から当支援金を活用し事業を実施しているが、交流会だけではマッチングしてもなかなか成婚に至らないことから、交流会でのチャンスを活かすためのセミナーが大切と思われる。

○SNS(LINE@)を活用した婚活機運向上プログラムの展開

プログラム利用者登録数 目標: 60件(人) 実績: 80人

企業相談数 目標: 20社以上 実績: 見送り

当プログラムは試行ではあったが、目標であった登録者数を上回ったことや、登録者へ行ったアンケートでも配信した情報や個別相談に満足した者が8割であったこと、個別相談では、結婚相談所にも相談しづらいかと思われるような相談が寄せられたことは、新たな結婚支援策として有効であったと考える。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

H30年度に実施した各種セミナーやイベントでのアンケート等では、異性とのコミュニケーションへの不安や自分に自信がないと感じている未婚者やその親が多かったことから、それら不安を取り除くためのセミナーを複数回開催し、異性から選ばれる人材を育成するとともに、交流会も開催し、出会いの場を提供していく必要があると考える。

SNSを活用した個別無料相談や婚活に係る情報提供は、「役に立った」「参考になった」との意見が多く、継続を望む声もあることから今後も継続したい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ①上田市婚姻件数
- ②結婚相談所(社協・JA・民間)新規登録者数
- ③SNSプログラム利用者登録数
- ④企業相談数

※自己評価【C】

【理由】

未婚者向けセミナーと交流会、親向けセミナーをとおして、最近の婚活事情を知ってもらったことが、結婚相談所への新規登録につながっていると考えられる。

一方で、婚姻件数は減少傾向である。当市では平成27年度から結婚支援事業を実施。また、昨年度から当支援金を活用し事業を実施しているが、交流会だけではマッチングしてもなかなか成婚に至らないことから、交流会でのチャンスを活かすためのセミナーが大切と思われる。

SNS(LINE@)を活用した婚活機運向上プログラムは試行ではあったが、目標であった登録者数を上回ったことや、登録者へ行ったアンケートでも配信した情報や個別相談に満足した者が8割であったこと、個別相談では、結婚相談所にも相談しづらいかと思われるような相談が寄せられたことは、新たな結婚支援策として有効であったと考える。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	機関誌を用いた市民による地域文化活動の発信・定着推進事業
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市交流文化芸術センター) 上田市天神三丁目 15 番 15 号 0268-27-2000
事業区分	③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,406,400円 (うち支援金: 3,304,000円)

事業内容

市が推進する「文化の薫る創造都市」実現のため、文化・芸術の発信拠点と位置付けられているサントミュージゼが、上田市主催の文化事業取材レポートを掲載するほか、アーティストインタビューや公演情報に限らず、まちの情報を発信。読み物としての質は勿論、冊子そのものの魅力を高め、上田市の文化活動の記録・保存の役割を果たした。

鑑賞事業だけでなく、市民参加型事業などのレポート掲載、市民コラムの寄稿や市民の生の声を掲載することで、上田市の文化・芸術活動やその理念を身近に感じてもらい、機関誌を媒体とした主体的な情報発信者を増やしていく。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

掲載内容、デザインなど総合的に冊子の質を高め、館だけでなく市全体のブランディングとその情報発信に大きく貢献した。その結果、市民からの問合せや SNS での情報拡散、全国公共劇場などでの高い評価のほか、誌面での事業紹介や機関誌を用いた地域との関わりなどの、掲載手法に対する視察や情報発信の参考資料としてのヒヤリングが全国から複数あった。また、機関誌の設置依頼先は、前号より 370 箇所増の 605 箇所 (前号比 257%) となった。さらに、これまでの市民参加事業へ参加した市民による座談会を開催し、上田市の事業についての生の声を掲載したこともあり、機関誌を媒体とした情報発信者を増やただけでなく、サントミュージゼは勿論上田市のブランディングに大きく貢献した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

文化・芸術を通じた上田市の魅力発信とブランディングに努め、市民や芸術家など市内外の方が上田市と交流するきっかけとなる誌面作りを目指す。

限られた発行部数の中で設置箇所、配布先を増やすのは困難ではあるが、WEB でのデジタルアーカイブと連動させながら設置依頼箇所を増やし、より広域的な情報発信に取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【市民参加事業の参加者による、機関誌取材の様子】

【目標・ねらい】

- ① 上田市の文化活動の発信
- ② 上田市の文化活動の記録と保存
- ③ 市民による情報発信
- ④ まちの魅力発信

※自己評価【 A 】

【理由】市民からの問合せ、SNS での機関誌に対するコメント (高評価) や全国の公共劇場からの高い評価が複数寄せられたことにより、各方面からの情報発信、PR 事業者 (個人含む) が増えた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域文化の育成と発信およびシティプロモーション
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市交流文化芸術センター) 上田市天神三丁目 15 番 15 号 0268-27-2000
事業区分	⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業 / ③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	993,600 円 (うち支援金: 794,000 円)

事業内容

地域の活性化と、市が推進する「文化の薫る創造都市」実現のため、文化・芸術の発信拠点と位置付けられているサントミュージゼが、アーティストや市民と協働して上田市のシティプロモーション映像を制作。市内外に広く公募し、参加した一般市民 21 名（飛び入り参加除く）が、ワークショップを経てアーティストと市民による芸術を通じた交流、録音・撮影を実施した。市外からの参加者に上田市の魅力を体感してもらうだけでなく、市内在住者にも非日常体験を通じ上田市の新たな魅力発見の機会とすることで、上田市のブランディングを推進した。今回制作した映像を活用し、今後 HP や SNS 等で上田市の魅力を発信していく。



【子どもたちも飛び入り参加してのワークショップ・録音の様子】

【目標・ねらい】

- ① 上田市の地域文化活動の育成
- ② 上田市の文化活動の記録と保存（可視化）
- ③ まちの魅力発信とブランディング
- ④ 新たな出会いと交流の創出、自分発見

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

アーティストと市民がワークショップや撮影を通して本事業に取り組んだことにより、コンサートなどを鑑賞するだけでなく芸術の楽しみ方を知ってもらうことができた。幅広い世代が参加したことにより、ワークショップ中や撮影の合間で、相互理解やお互いを思いやるなどの場面も多くあり、地域での新たな出会いの場を創出することができた。また、映像出演を通じた、日常体験の創出と、改めて地域の魅力を発見する機会となり「上田に観光に行きたくなった」などの感想が寄せられた。さらに、撮影協力で参加いただいた地元企業や団体からは、「いい映像を作ってくれて嬉しい」「自社の媒体でも紹介したい」などの声が寄せられた。今後は、上田市は勿論、アーティストや参加者のホームページ、SNS、店舗や企業を通して映像の内容を伝えていくことで、さらに上田市のブランディングにつなげていく。

※自己評価【 B 】

【理由】・全国から 22 名の応募（21 名参加）があり、市外県外からの参加があったことは、当市の魅力を知っていただく上の入り口として、成功したと言える。参加者からの候補湯が多く寄せられ、動画サイトでは、過去 2 番目となる再生回数を記録。当市の魅力発信と発見につなげることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

情報発信ツールとして最も効果が大きい映像を活用し、文化・芸術を通じた上田市の魅力発信とブランディングに努め、市民や地域とアーティストが交流する場を創出していく。本事業が、出演参加だけでなく撮影においても、地域住民や団体・企業と協働で取り組むためのきっかけとなるべく、当館や当市のホームページなどで継続して情報発信を行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域住民の読書活動の推進、図書館ボランティア等の市民協働への促進事業
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市立上田図書館)
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	880,640 円 (うち支援金: 660,000 円)

事業内容

1 「講演会」の開催

実施時期: 平成30年10月7日(日)

会場: 上田市上田文化会館

講師: 高橋 源一郎氏

演題: 社会のことば、文学のことば、ラジオのことば

参加者: 約450名

参加費: 無料

図書館を利用しない市民へ本や読書の魅力を伝え、図書館をより知ってもらうため、読書意欲や図書館の活用を喚起できるような著名な作家の講演会を計画した。

時間の余裕が比較的あると思われる50代以上の年齢層を講演会への参加対象とした。

2 「超大型絵本読み聞かせ会」の開催

実施時期: 平成31年1月20日(日)

会場: 上田創造館

出演者: ㈱ポプラ社 読書アドバイザー他4名

丸子・真田地域ボランティア 8名

参加者: 106組 335名

参加費: 無料

子どもの成長に合わせ、多くの絵本に出会う機会を持つことを目的に絵本の読み聞かせを計画した。

また、地域で活動しているボランティアが出演することにより、活動内容を見ることで参加を促す機会とした。

地域で活動しているボランティアグループによる紙芝居、パネルシアターの実演を行った。

㈱ポプラ社による読み聞かせでは、高さ147cm、見開き240cm超大型絵本の読み聞かせの他に子供たちに選んでもらった絵本を紹介し、絵本の読み聞かせを行った。



【超大型絵本読み聞かせ会】

【目標・ねらい】

- ① 読書活動の推進
- ② 市民協働への促進

※自己評価【 B 】

【理由】

講演会や読み聞かせ会の開催により、地域住民の読書意欲を高め、図書館の活用につなげることができた。

また、読み聞かせ会の開催を通じ、ボランティア団体との連携を強化するとともに、市民のボランティア活動への参加を促す機会とすることができた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1 講演会

当初予定参加者：約300名

当日の参加者：約450名

当初の予定を大幅に上回る参加者数から読書に関する関心の高さがうかがえ、今回の講演会を機に改めて本への興味や読書を再開する一助になったと思われる。講演会開催にあたり、館内へ高橋氏の著作を並べたコーナーを作って紹介しており、貸出数も多かった。

2 超大型絵本読み聞かせ会

当初予定参加者：約100名

当日の参加者：約300名

読み聞かせ会の開催後に、当日紹介した本について問い合わせがあり、様々な本を選ぶ機会となったと思われる。

読み聞かせ会への参加申し込みの際には、他の団体の活動を見てみたいと申し込んだ方、どんな方法で読み聞かせを行うのか興味があるとの理由から申し込んだ方もおり、市民協働への参加を促す機会となった。

また、各地域でボランティア活動を行っている団体が交流を深める機会となり、市民協働の推進が図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

読書意欲を喚起できるような本の紹介や企画を検討していく。

各地域のボランティア団体へ呼びかけ、民間企業も含めた読み聞かせ会の開催を検討していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東御市結婚活動支援事業「であうとうみ」
事業主体 (連絡先)	東御市 東御市県 281-2
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	928,800 円 (うち支援金: 696,000 円)

事業内容

東御市の結婚適齢期世代の結婚に向けた意識の醸成を図り、適切な情報発信や取り組みを行い、地域を挙げた結婚活動支援を行う。

- ① 事業所向け講演会 7月12日(木) 中央公民館 参加者17名
- ② 男性向けセミナー(全2回) 8月2日(木)、9月13日(木)
中央公民館 参加者3名
- ③ 出合いのイベント(全3回)
 - ・ワインで乾杯!地産ワイン恋活 8月25日(土)
TOMI WINE CHAPEL 参加者24名
 - ・火のアート焼きものづくり恋活 10月13日(土)
芸術むら公園 参加者21名
 - ・天然素材の香り袋づくり&薪ストーブほっこり恋活 11月11日(日)
農の家 参加者17名



【イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ① 結婚活動支援事業の啓発及び結婚適齢期世代の意識の醸成
- ② イベント参加者によるカップリング
- ③ イベントを通じた交流人口の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① SNSによる広報、チラシの設置及びポスターの掲示等により事業全般の啓発及び周知ができた。広報によりイベント参加者数が応募数を上回った。
- ② 出合いのイベントについては、応募数56名に対し、参加者数62名であり昨年度比46%増、カップリング数は11件であり昨年度比5件増と一定の成果がみられた(H29実績 募集数112名参加者数71名)。
- ③ 出合いのイベントを通じて初めて東御市を訪れる参加者も多かった。市内産のワインを味わい、ワインの知識を楽しく深めることができた。また火のアートでは、会場内の温泉を楽しんだり、秋の風景を撮影する等フェスティバルの雰囲気を楽しむ姿も見られ、また訪れたいとの希望も多く聞かれた。

※自己評価【 B 】

【理由】

カップリング11件(目標値10件)
婚姻数122(目標値各年131を維持)
しあわせ信州婚活サポーター0人
(目標値2人)
目標値が一部達成できなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	歴史遺産を核としたオリエンテーリングモデル事業
事業主体 (連絡先)	長和町 (長野県小県郡長和町古町 4247-1)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,842,462 円 (うち支援金: 1,264,000 円)

事業内容

本州最大規模の黒耀石原産地を背景として残る旧石器時代からの歴史遺産を、黒耀石体験ミュージアムの友の会の案内で巡るオリエンテーリングツアーや体験イベントを、地域の歴史遺産を観光資源として活かすモデル事業として実施し、地域資源の再発見とその魅力を発信する人材育成を試みた。

- 1, 鉾山探検&遺跡コンサート (森林ウォーク): 8月11日 参加者 60名
- 2, 黒耀石ツアー&国際交流 (巡回バスツアーと縄文食体験): 10月4日 参加者 55名
- 3, スノーハイク&雪のナウマンゾウづくり (旧石器バーベキュー): 2月23日 参加者 104名

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 観光資源としての歴史遺産の活用という視点によるオリエンテーリング事業は初めての試みであり、今回の実施によって町内外の方々にその魅力に気づいていただく貴重な事業の実施となった。
- ② 行政が主催する様々な文化講座と異なり、黒耀石体験ミュージアム友の会という身近な一般市民によって実施されたガイドツアーやイベントは、地域住民自らが主体的に参加・実践できる地域振興事業のモデルとして、住民意識の向上に繋がる反響を得ることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・事前の広報活動に力を入れ、また、その期間を十分に取り、より多くの方の参加を促す。
- ・ツアーは初めての試みであったが好評であったため、専門家も交えて内容を再検討し、継続する方法と体制づくりを検討していく。
- ・友の会以外にも活動従事者を広げるため、地域住民の意識啓発と人材育成に取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【友の会のガイドによる黒耀石ツアー】

【目標・ねらい】

- ① 観光資源としての歴史遺産の活用
- ② 地域の魅力の再発見
- ③ 歴史遺産活用人材の育成と住民への啓発
- ④ 地域の魅力発信

※自己評価【B】

【理由】

- ・参加者の満足度が高く、継続実施への要望が強かった。
- ・実施日がいずれも地域の祭りなどと重複したが、町外からの参加者数が多かったため、計20%の減に留まった。

平成 30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	特産品開発支援及びPR事業
事業主体 (連絡先)	長和町 0268-68-3111
事業区分	(6) エ 産業振興、商業の振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,126,600円 (うち支援金: 2,050,000円)

事業内容

①供給体制、品質管理を目的として「無線温度計」、「アイスカップ打栓機」を導入した。また、拠点となる食品加工施設を整備した。

②町内外に対して長和町の奨励品の魅力を知ってもらうため、また特産品開発の推進、注意点に関する講習会を兼ねて奨励品 10周年イベント（長和町ふるさとフェア）を開催した。

- ・期日：平成 31年 2月 23日
- ・場所：和田コミュニティセンター
- ・イベント来訪者数：200名

③各種イベントへの出展、商談会への参加等を実施し、特産品の周知を図った。



【PRイベント】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①安心・安全な商品の提供を行うことで信頼向上に向けた体制が整った。また、施設整備を行うことで保健所の許可、大量発注等も対応可能となった。

②イベント開催、出展等により、周知等を行ったことで各事業者への問い合わせ等が多々ありPRの効果が見られたと考える。また、事業者への講習会を行い、ラベル表示（HACCP）対応への理解を深められた。

①アイスクリーム開発 ②奨励品としての認知度の向上や、需要喚起を踏むためのPR
--

【目標・ねらい】

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度でアイスクリームの商品が確立できたので、今後は各種の開発、販路拡大を目指していく。

また、奨励品イベントは大変好評だったため、更なる町内外のPRとして実施していきたいと考えている。

※自己評価【B】 【理由】 ①アイスクリーム販売まで至ることができなかったが、供給体制は整った。 ②イベントは盛況で開催して良かった。違った形で継続できるように模索する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふるさと公園あおきみんなの公園プロジェクト
事業主体 (連絡先)	青木村 青木村役場 総務企画課 企画財政係 0268-49-0111 内線 111
事業区分	(5) 環境保全および景観形成に関する事業
事業タイプ	(1) 地域協働の推進に関する事業 (2) 教育、文化の振興に関する事業
総事業費	801,128 円 (うち支援金: 600,000 円)

事業内容

① 植花祭

ふるさと公園あおきの花壇エリアで村内の団体や保育園児に植花してもらおう。また「ふるさと公園あおきサポーター」として個人の参加も募る。

② 寄贈エリアの新設

個人、法人からの花苗等の寄附を受け付け、今後村の財政のみに頼らず村民で公園を作り上げるという意識の向上を図る。

③ 花壇コンテスト

植花祭で植えた花壇のデザイン性や管理に仕方を評価し、村民のみならず周辺住民も参加する「青木村産業祭」で表彰を行う。



【4. 22 植花祭】

【目標・ねらい】

- ① 花いっぱい景観形成
- ② 参加型の公園管理
- ③ 公園を利用した緑に関する子どもたちへの屋外教育の推進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

3年目となった本事業では、4月22日に植花祭を行い、村内団体や保育園、また「ふるさと公園サポーター」として個人の参加も多くみられた。団体からの要望もあり、多年草のシバザクラを多く植え、来年度からのコスト削減につなげた。

また寄贈エリアを設けたことで、村の花の「アイリス」や「ヒマワリの種」の寄附があり、この事業が多くの村民に広がり、村民の手で公園を作り上げるという意識の向上につながった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本年度で、元気づくり支援金の活用が終了するが、今後も官民協働のもとに植花や管理を継続予定である。持続的な花壇づくりのために2年間の植花スケジュールを村民と共に作成した。2年間で植花や植え替えを行う予定であり、32年秋頃に花壇は完成予定。多年草を中心とするため、毎年花苗を植える必要がなく、水やり等の管理であり、コスト削減にもつながる。

※自己評価【B】

【理由】

参加団体が減ってしまったが、個人の参加が多く、初参加の方もおり、この活動が広まっていることを実感した。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	一石二鳥で農地を活かす「竹チップ活用プロジェクト」事業
事業主体 (連絡先)	青木村 〒386-1601 小県郡青木村大字田沢 111 0268-49-0111
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,982,843 円 (うち支援金 : 2,020,000 円)

事業内容

青木村はもとより全国的に耕作放棄地が増加してきている中、特に耕作放棄地周辺に竹林があると、すぐさま竹が農地に侵食し、荒廃農地化の一因となっています。

こうした状況の改善を図るため、「竹チップ活用プロジェクト」を立ち上げ、農地を侵食する厄介な竹を逆に肥料として活用する新たな試みに取り組みました。

竹粉碎机や竹切りチェーンソーといった実作業に当たるための機器を導入し、竹チップ肥料を入れた土壌とそうでない土壌の診断、先進地視察等の実施、また情報発信も積極的に行い、村内外から大きな関心を得ています。今後も引き続き更に活発に活動していけるよう、機運の高まりに繋がりました。



【圧縮竹粉碎机実演】

【目標・ねらい】

- ①作業環境の確立
- ②竹チップ肥料が土壌へ与える効果の可視化
- ③村民への知識普及と機運向上

事業効果

- ①支援金を活用して竹粉碎机をはじめ竹切りチェーンソーや竹切りのこぎりを導入し、希望者が竹林整備作業に当たることが出来る環境を整備。また検討回数を重ね、安全に利用してもらえる規約も作成した。
- ②竹チップ肥料等の効果については雑誌等で目にすることもあったが、どのように作用するか明確に数値として確認できるケースは稀であった。そこに着目し、土壌診断等を実施。予想以上の結果となった。
- ③視察研修や実作業の講習会を実施し、村民へ竹の有用性や実作業に係る知識を普及。見込みより多く予約が入る等、関心の高さが見られ、取組をマスコミにも多々取り上げていただき機運向上にもつながった

※自己評価【 B 】

【理由】

機器の導入により、今後実作業する環境を整えられた。
土壌診断等で竹の有用性を数値化し、視察等で村民の関心を大きくすることが出来た。

今後の取り組み

作業環境を確立したことで、今後村民の積極的な利用が期待される。講習会を定期的で開催し、更なる利用促進を狙う。併せて、竹の有用性について得られた分析結果をもとに生ごみ等と掛け合わせた堆肥の研究も進め、竹チップ堆肥化及び生ごみの減量化へと取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	～青木の先人、五島慶太翁 没後60年～「誇らしきわが郷土」再発見事業
事業主体 (連絡先)	青木村 〒386-1601 小県郡青木村大字田沢 111 0268-49-0111
事業区分	(6) 産業振興 雇用拡大 (ア特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,436,372円 (うち支援金: 1,875,000円)

事業内容

平成31年は、青木村が生んだ偉人、東京急行電鉄株式会社の創業者五島慶太翁の没後60年の節目となります。慶太翁生誕の地として、故人の功績を称えるとともに、故人が現代社会に与えた影響等を再認識するため、先人の功績等について改めて焦点をあてました。また、パンフレットの制作や記念講演会の開催等、先人の功績等をさまざまな方法で情報発信し、生誕の地の知名度向上と慶太翁にルーツがある者の来村を促しました。



【講演会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 多様な角度から慶太翁を紹介するため、パンフレット・チラシ・映像作品を製作し、慶太翁の功績への注目を再び集めることができた。
- ② 記念講演会を開催し、村内外から300人が参加し、関係人口を創出することができた。また、記念講演会の開催にあたっては、関係団体から講師派遣や後援名義使用を依頼する等、連携強化が図れた。
- ③ 五島慶太翁に関する野立看板を設置し、来村者へ生誕の地であることを幅広くPRした。
- ④ 昨年焼失した慶太翁の生家の復元模型を製作し、貴重な地域資源への関心を高めたり、来村するきっかけを増やすことができた。

- ① 五島慶太翁の功績の再検証
- ② 連携強化・関係人口創出
- ③ 生誕の地青木村のPR
- ④ 貴重な地域資源の伝承

※自己評価【 B 】

【理由】

講演会開催やチラシ等配布によって、村民が郷土の偉人への愛着と誇りを持てるようになった。
慶太翁にルーツのある者が講演会を聴講し、関係人口の創出が図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成31年1月17日に五島慶太翁が創立した学校法人五島育英会東京都市大学と包括連携協定を締結した。協定に基づき、人材育成や資料提供等、慶太翁にルーツがある者等を対象に、青木村とつながりを持つ機会を提供する取り組みを継続的に実施していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある